

教員養成段階において情報モラルの指導法を学ぶ講義の検討

佐藤和紀(東京都杉並区立高井戸東小学校・東北大学)・高橋純(東京学芸大学)
吉野真理子(広島県教科用図書販売株式会社)・堀田龍也(東北大学)

概要：教員養成段階において情報モラルの指導法を学ぶ講義を開発した。小学校での実際の授業映像を教材化し、講義で視聴させ、授業案を作成するという内容であった。講義前後で行った質問紙調査の結果、「小中学生に情報モラル指導が実際にできるようになると思う」という意識が向上した。

キーワード：教員養成，情報モラル，情報活用能力

1 はじめに

近年，SNS の使用に関わる問題が増加し大きな課題となっている。次期学習指導要領にむけた議論においては，情報モラルといった情報活用能力育成の重要とされ，情報モラル指導の一層の充実が求められている（中央教育審議会 2016）。このことから，教員養成段階においても従来以上に指導法を学ぶ必要がある。その際，「養成課程における指導に当たっては，情報モラルなどの情報活用能力についても育成すべきである」（中央教育審議会 2015）とのことから，情報モラルそのものに関する知識等も不足していることを前提に，養成段階の講義を検討していく必要がある。

本研究は，教員養成段階において情報モラルの指導法を学ぶ講義を開発し，検討した。

2 講義の設計と実践

情報モラルそのものに関する知識等が不足している場合，自らカリキュラムや教材を作成したりするのは困難である。そこで，情報モラル教材を用いた指導法を学ぶ1時間半の講義とし，次の流れで行うこととした。1) 情報モラルに関する基礎知識を学ぶ，2) 学校現場で行われている授業から学ぶ，3) 情報モラル教材を用いた授業案を作成する。情報モラル教材として，広島県教科用図書販売株式会社の「事例で学ぶ Net モラル」を用いることにした。講義の詳細

を以下に示す。

1) 情報モラルに関する基礎知識を学ぶ

情報モラルに関わる児童の意識や事件の件数，小学校における情報モラル教育の実態，指導の必要性について短時間で学ぶ内容を作成した。

2) 学校現場で行われている授業から学ぶ

第一著者が，小学校第5学年の総合的な学習の時間で情報モラルの模範授業を行った（表1）。これをビデオ撮影し，授業場面ごとにテロップで活動内容と教師の意図を説明し，15分にまとめた（図1）。

表1 模範授業の構成

1	教材に関連する発問をする
2	教材を視聴する視点を与える
3	教材動画を視聴させる
4	教材動画の内容を確認する
5	学習課題を提示する
6	協働学習 (問題点の確認と改善方法の提案)
7	改善方法を提案させる(発表)
8	まとめの教材動画を視聴させる



図1 模範授業の教材の一部

3) 情報モラル教材を用いた授業案の作成

模範授業で活用した教材とは別のテーマの教材を視聴させ、その教材を活用した授業案を作成することにした。授業案は、①導入(意欲や関心を高める活動や発問)、②展開 1(教材を視聴する)、③展開 2(実感をもって、具体的な対策やルールを学んだり考えたりする活動)、④まとめ(まとめ動画を視聴する、など)という流れで記述するためのワークシートを作成した。この活動では、始めに1人で考えてワークシートに記入し、次に3~4名程度のグループで発表し合い、最後に数名の学生を指名して授業案を発表させることを想定した。

3 講義の評価

(1) 調査対象および調査時期

調査対象は東京都内の国立大学教育学部の講義を受講している大学2年生23名が対象であった。調査時期は2016年7月25日であった。

(2) 評価の方法

講義による学生の情報モラル指導に関する意識の変容を確認するため、講義前と講義後に質問紙調査を実施した。質問紙は全3問で構成した(表3)。4件法で質問し、4:あてはまる、3:少しあてはまる、2:少しあてはまらない、1:あてはまらない、とした。

表2 質問紙調査の構成

1 私は現職教員より「情報モラル」に関する知識はあると思う。
2 私は小中学生に「情報モラル指導」ができる知識があると思う。
3 私は小中学生に「情報モラル指導」が実際にできると思う。

(3) 結果と考察

質問紙調査の結果、全ての項目で講義前の平均点よりも講義後の平均点のほうが高く、有意であった(質問項目1($t(22)=3.761, p<.01$), 質問項目2($t(22)=3.219, p<.01$), 質問項目3($t(22)=4.720, p<.01$)). その結果を表4と図2に示す。

表3 各質問項目の平均点と標準偏差

	講義前調査		講義後調査	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
質問項目1	1.454	0.250	2	0.348
質問項目2	1.932	0.303	2.348	0.314
質問項目3	1.514	0.499	2.391	0.238

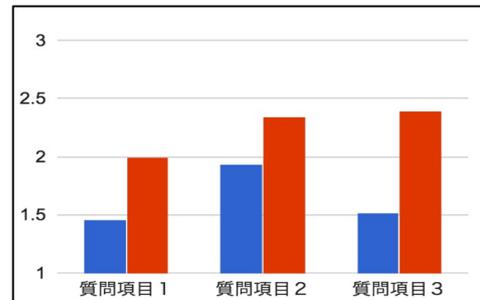


図2 各質問項目の平均点

全ての項目で向上がみられたものの、講義後も現職教員より情報モラルの知識が不足していると考えられる学生は多く(質問項目1)、情報モラル指導ができる知識よりも(質問項目2)、指導が実際にできるが大きく向上していた(質問項目3)。このことから、本講義によって特に指導のイメージが具体的に伝わったと考えられる。

4 おわりに

今後、教員養成段階の講義で活用できるように、本講義をパッケージ化して広く公開していく見込みである。

参考文献

- 中央教育審議会(2015)これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf (2016. 8. 17. 確認)
- 中央教育審議会(2016)次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/08/03/1375316_3_1_1.pdf
 (2016. 8. 17. 確認)